

## わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる(4)

— 新木の香取神社と「香取の井戸」・「かまくら道」 —

我孫子市史研究センター いいじろ 飯白 和子

### ● 香取神社

香取神社は上新木地区の鎮守社で、成田線の南側、線路沿いにあります。大正9年に刊行された『湖北村誌』に、香取神社の創建について、中里の鎮守諏訪神社が天正4年(1576)、古戸の鎮守稲荷神社が天正7年と伝えられることから、この頃ではないかと記されています。香取神社から200mほど南東の字羽黒前から鎌倉～室町時代の居館跡が発見されたことからこの居館の鎮守社として祀られていた可能性も考えられます。

祭神は、経津主命(ふつぬしのみこと)。本殿は、昭和21年8月にもとの湖北小学校にあった奉安殿<sup>ほうあんてん</sup>を移設し本殿としたものです。奉安殿というのは戦前、御真影(天皇、皇后のお写真)と教育勅語を納めていた建物の事です。境内にある「香取神社重修記念碑」に経緯が記されています。境内には近在から移されてきた、水神宮、山神、鹿島大神宮、羽黒山権現、鷲明神などの石宮も祀られています。



香取神社本殿(旧奉安殿)

### ● 香取の井戸

香取の井戸は、香取神社の南方の崖下の茂みの中にあります。『湖北村誌』には「中相馬七ヶ村には七つ井戸と称して必ず一村一個を有せり、之を大日井戸」といい、また「正月元日此の井戸より若水を汲み来たりて、之を平生使用の井戸水に三杓つゝ注加して、先祖に供ふる三ヶ日の膳部を炊くの恒例なりき」とあります。

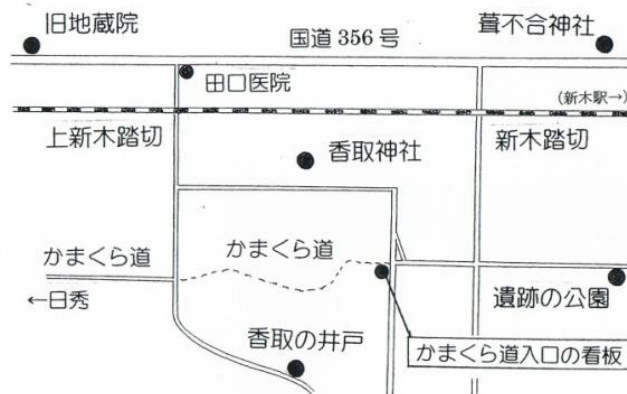
### ● 湖北の七つ井戸

七つ井戸というのは、①弁天の井戸(現萱不合神社境内)、②香取の井戸(上新木字宮の脇)、③将門の井戸(日秀字掘込)、④桜井戸(古戸字東鼻)、⑤井戸坂の井戸(中里字島の下・現湖北台2丁目)、⑥元日の井戸(中峠字江蔵地作・現湖北台7～8丁目)、⑦八幡の井戸(岡発戸字くびれ)といわれています。井戸の下には、粳種を浸す種池が設けられていました。谷津田の稲作にとって大変重要な井戸だったので。

### ● 鎌倉道

遺跡の公園の道を上新木地区に向かって進むと市教育委員会が設置した「かまくら道入口」の看板に突き当たります。雑木林のなか斜面を沿うように下ると十字路に出ます。右は上新木踏切へ、左(手賀沼方向)に下れば香取の井戸です。真直ぐ進むと日秀地区の畑道を通り将門神社付近を経て中里の市民の森へと続いています。この道を古くから「鎌倉道」と呼んでいました。東は布佐台幼稚園

付近の畑に「頼朝手植えの松」の伝承がある松と石祠があります。「遺跡の公園」から布佐台の方へ続く古い道があったのでしょうか。气象台記念公園前の356号線の南側斜面には、鎌倉坂と呼ばれる所もあります。新木地区は遺跡、史跡探索には事欠きません。これも地元の方々大切に守ってこられたおかげです。(引用文献:『我孫子市史研究3号』)



香取神社・かまくら道・香取の井戸付近略図



かまくら道